スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

鹿児島県　奄美市

自 治 体 名 ： 鹿児島県奄美市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0997-52-1128

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	308 ㎢
人口	40,249 人
公立中学校数	12 校
公立中学校生徒数	1,133 人
部活動数	51 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

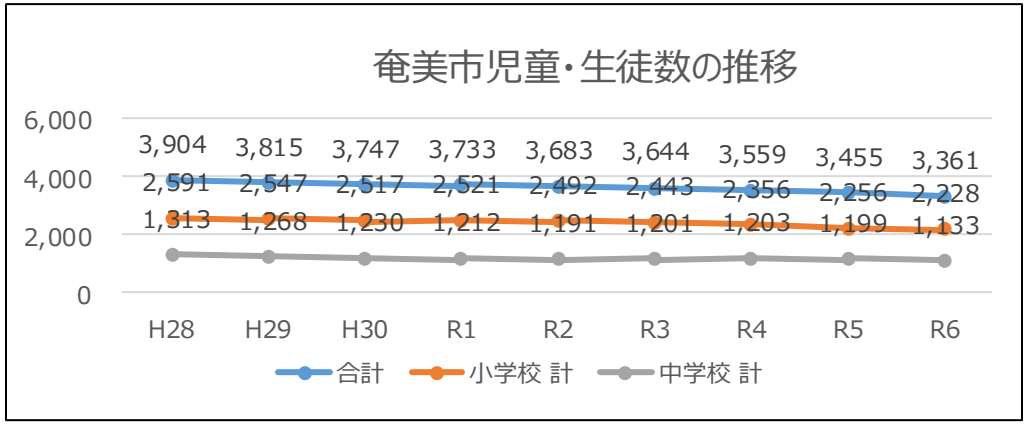
現在，本市の運動部活動は，13種目からなる51部活動がある。

少子化に伴い，５校４チームの合同チームも存在する。

昨今の生徒数の推移を見ると，団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。元々，全校生徒が100人を超える学校は，12校中５校しかなく，それ以外の７校は，一桁台３校含む小規模校ばかりである。

改革推進期間である３年間で，「令和８年度から，可能な限りの『休日の部活動地域移行』を目指す。」として，中学校部活動の地域移行と同時に，教職員の働き方改革の推進にも取り組んでいる。

また，長年にわたって部活動は，学校教育の一環で運営するものという考えが生徒，保護者，地域に根付いている。実際に部活動地域座談会をとおしても，まだまだ部活動に対する期待感は大きいと感じた。今後，地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり，同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の発掘及び確保，そして，新たな体制づくりを同時に進めていかなければならない。



出典:学校基本調査より

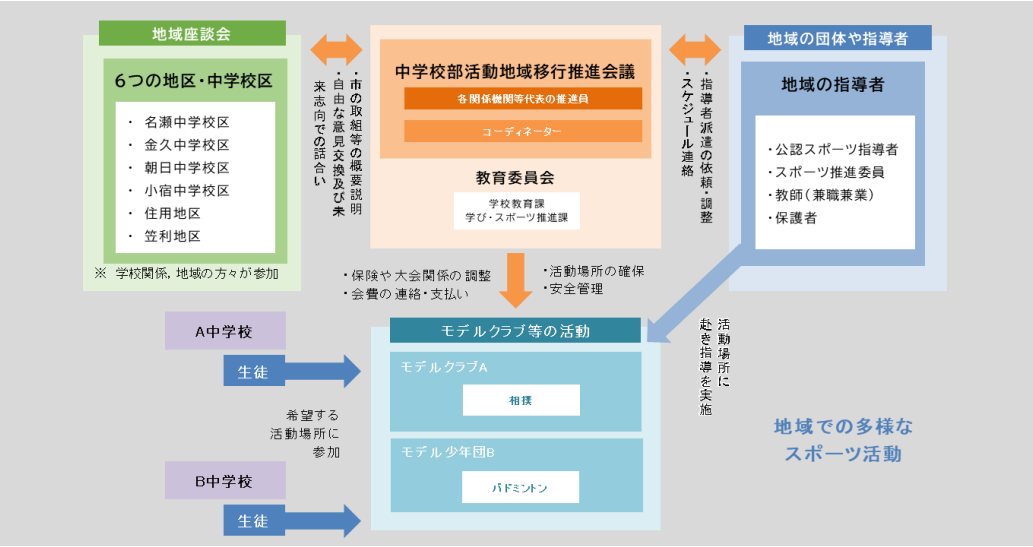
【課題】
現在の奄美市の児童・生徒数の推移を鑑みると，今後も，減少傾向は続くことが想定される。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・学校教育課…部活動改革の主幹，学校との調整・連携，学校に関する事項について

・学び・スポーツ推進課…中学生の地域文化活動の環境整備

◉首長部局

・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和６年６月	大島地区中学校総合体育大会相撲競技視察
令和６年８月	第１回奄美市中学校部活動地域移行推進会議
令和６年11月	部活動地域座談会（住用地区）
令和６年11月	部活動地域座談会（朝日中学校区）
令和６年12月	第２回奄美市中学校部活動地域移行推進会議
令和６年12月	部活動地域座談会（笠利地区
令和６年12月	部活動地域座談会（名瀬中学校区
令和７年１月	部活動地域座談会（金久中学校区
令和７年２月	部活動地域座談会（小宿中学校区
令和７年２月	第３回奄美市中学校部活動地域移行推進会議

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	12 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（ 2 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
赤木名中相撲クラブ	クラブ	相撲	月20 回／週5 回（など）	平日 17:00 ～ 19:00 休日 10:00 ～ 12:00	1年 2人 2年 9人 3年 1人	4月～3月	赤木名中道場	1人	1 人	月会費 1,000 円／年会費 1,200 円（など）	地域クラブ
崎原バドミントンスポーツ少年団	スポーツ少年団	バドミントン	月12 回／週 3 回（など）	平日 16:00 ～ 18:00	1年 1人 2年 4人 3年 3人	4月～3月	崎原小中学校体育館	2 人	2 人	月会費500 円／年会費 6,000 円（など）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 赤木名中相撲クラブ･･･県総合体育大会へ５人出場
- 崎原バドミントンスポーツ少年団･･･県総合体育大会へ４人出場

2.実証内容と成果

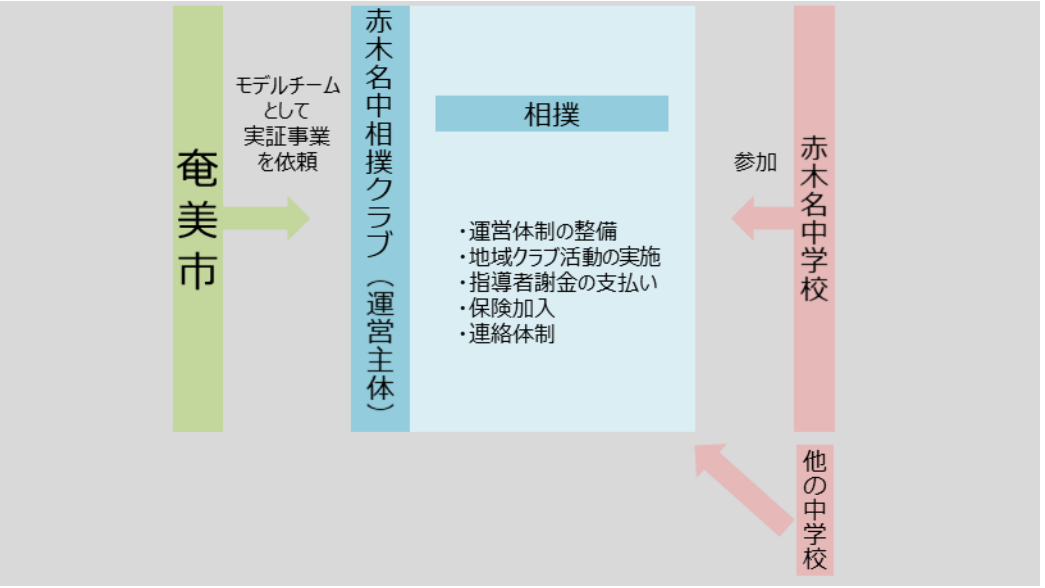
スポーツ庁

主な取組例

●赤木名中相撲クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	相撲
運営団体名	赤木名中相撲クラブ
期間と日数	相撲：４月１日 ～ ３月31日 月20回程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	赤木名中学校
主な移動手段	徒歩及び自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：クラブの運営管理を行う

●主任指導者　１ 名

役割：指導全般を行う

●運営補助者　１ 名

役割：指導者や生徒の補助を行う

2.実証内容と成果

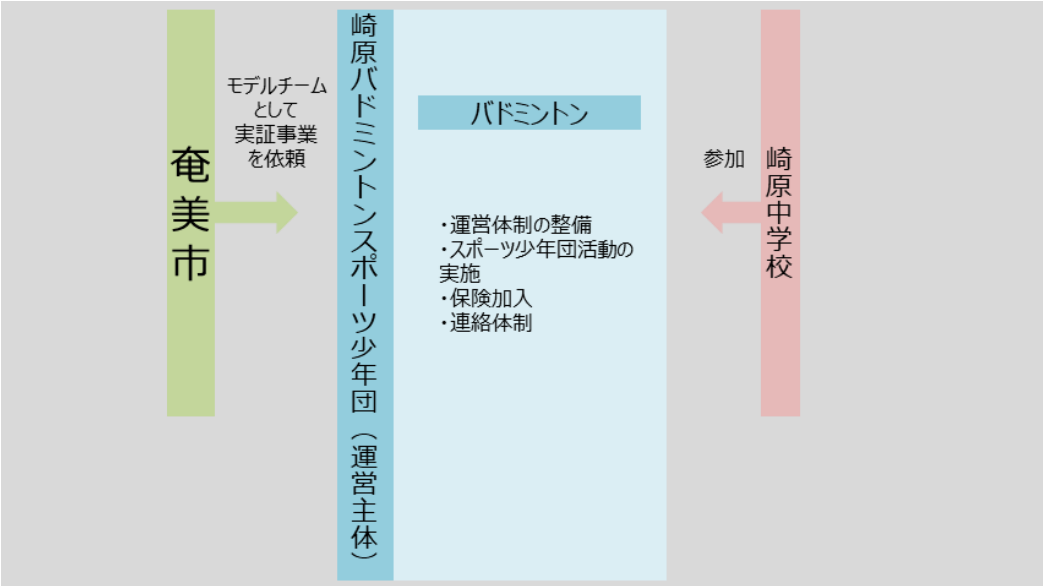
スポーツ庁

主な取組例

●崎原バドミントンスポーツ少年団　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	崎原バドミントンスポーツ少年団
期間と日数	バドミントン：４月１日 ～ ３月31日 月12回程度
指導者の主な属性	小学校職員，地域指導者
活動場所	崎原小中学校
主な移動手段	徒歩及び保護者の送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	6,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：スポーツ少年団の運営管理を行う

●主任指導者　１ 名

役割：指導全般を行う

●運営補助者　１ 名

役割：指導者や生徒の補助を行う

2.実証内容と成果①

ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備
イ：指導者の質の保障･量の確保
ウ：関係団体･分野との連携強化
エ：面的･広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

取組事項

本市中学校部活動地域移行推進会議の開催を年３回開催する。

推進会議のメンバーは，概ね令和５年度と同じメンバーとした。

併せて，部活動地域座談会を６つの地区･中学校区で開催した。

取組の成果

・３回の部活動地域移行推進会議をとおして，本市における予算確保（受益者負担含む），人材確保，場所の確保等について話し合い，具体的な移行に向けた確認ができた。

・令和６年度の取組をとおして把握した予算確保，人材確保等の課題について，令和７年度に検証を進める内容について，推進会議内で情報共有ができた。

・６つの地区･中学校区で開催した部活動地域座談会では，学校関係者だけではなく，地域の様々な方々の貴重な意見等，生の声を聴くことができた。地域クラブの年齢層や移動手段等，各地区でそれぞれ抱えている課題を一部であるが把握することができた。

・部活動地域移行推進会議及び部活動地域座談会をとおして，これまで把握していなかった新たな地域クラブの把握や，新クラブ立上げに向けたきっかけとなる手応えがあった。

今後の課題と対応方針

・令和５年度～令和６年度と２年間の部活動地域移行推進会議の開催をとおして，令和８年度へ向けた方針の確認や具体的な取組について，令和７年度は更に議論を加速させていく必要がある。

・部活動地域移行推進会議と併せて部活動地域座談会の開催も行い，各地域での協議会設置へつなげていく。





【部活動地域移行推進会議の委員も参加した部活動地域座談会】

2.実証内容と成果②

ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備
イ：指導者の質の保障･量の確保
ウ：関係団体･分野との連携強化
エ：面的･広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

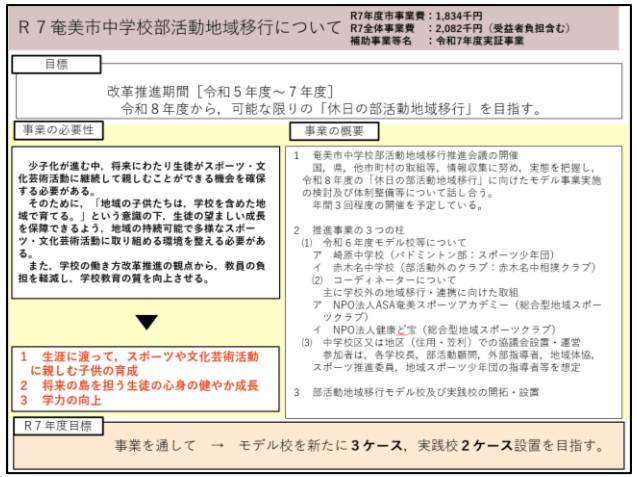
スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

部活動地域移行推進会議資料（一部抜粋）


令和６年度
第１回
奄美市中学校部活動
地域移行推進会議


Ｒ７奄美市中学校部活動地域移行について
R7年度市事業費：1,834千円
R7全体事業費　：2,082千円（受益者負担含む）
補助事業等名　：令和7年度実証事業

目標
改革推進期間［令和５年度～７年度］
令和８年度から，可能な限りの「休日の部活動地域移行」を目指す。

事業の必要性
少子化が進む中，将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保する必要がある。
そのために，「地域の子供たちは，学校を含めた地域で育てる。」という意識の下，生徒の望ましい成長を保障できるよう，地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動に取り組める環境を整える必要がある。
また，学校の働き方改革推進の観点から，教員の負担を軽減し，学校教育の質を向上させる。

1　生涯に渡って，スポーツや文化芸術活動に親しむ子供の育成
2　将来の島を担う生徒の心身の健やかな成長
3　学力の向上

事業の概要
1　奄美市中学校部活動地域移行推進会議の開催
国，県，他市町村の取組等，情報収集に努め，実態を把握し，令和８年度の「休日の部活動地域移行」に向けたモデル事業実施の検討及び体制整備等について話し合う。
年間３回程度の開催を予定している。

2　推進事業の３つの柱
(1)　令和６年度モデル校等について
ア　崎原中学校（バドミントン部：スポーツ少年団）
イ　赤木名中学校（部活動外のクラブ：赤木名中相撲クラブ）
(2)　コーディネーターについて
主に学校外の地域移行・連携に向けた取組
ア　NPO法人ASA奄美スポーツアカデミー（総合型地域スポーツクラブ）
イ　NPO法人健康ど宝（総合型地域スポーツクラブ）
(3)　中学校区又は地区（住用・笠利）での協議会設置・運営
参加者は，各学校長，部活動顧問，外部指導者，地域体協，スポーツ推進委員，地域スポーツ少年団の指導者等を想定

3　部活動地域移行モデル校及び実践校の開拓・設置

R７年度目標
事業を通して　→　モデル校を新たに**３ケース**，実践校**２ケース**設置を目指す。

委員メンバー

奄美市体育協会理事長，スポーツ少年団本部長，スポーツ推進委員会長，大島地区中学校体育連盟会長，奄美市中学校体育連盟会長，NPO法人ASA奄美スポーツアカデミー代表，NPO法人健康ど宝代表，奄美市中学校PTA代表，スポーツ少年団指導者代表，競技団体代表，文化系団体等代表，スポーツクラブ指導者代表，大島地区中学校体育連盟理事長，奄美市教育委員会（学校教育課，学び･スポーツ推進課，住用総合支所地域教育課長，笠利総合支所地域教育課長）

合計23人

第１回，第２回の議事録







【部活動地域移行推進会議（第３回）の様子】

2.実証内容と成果③

ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備
イ：指導者の質の保障･量の確保
ウ：関係団体･分野との連携強化
エ：面的･広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

部活動地域座談会実施要項

奄美市中学校の部活動地域移行・地域連携についての地域座談会実施要領

1　目的
　少子化が進む中，将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していく必要がある。
　そのために，「地域の子供たちは，学校を含めた地域で育てる。」という意識の下，生徒の望ましい成長を保障できるよう，地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動に取り組める環境を整えていかなければならない。
　また，同時に，学校の働き方改革推進の観点から，教員の負担を軽減し，学校教育の質を更に向上させていく必要もある。
　こうした課題の解決に向けて，地域の教育・スポーツ指導等に携わる関係者が集まり，様々な視点から本市の将来的な生徒のスポーツ・文化芸術活動に取り組む環境づくりについて意見交換を行う。

2　地域区分
(1)　名瀬中学校区（大川中学校・崎原中学校を含む）
(2)　金久中学校区
(3)　朝日中学校区（芦花部中学校を含む）
(4)　小宿中学校区
(5)　住用地区（住用中学校，市中学校，東城中学校）
(6)　笠利地区（赤木名中学校，笠利中学校）

3　対象者
(1)　各中学校長，各中学校教頭
(2)　各中学校部活動顧問等
(3)　各中学校部活動保護者会長等
(4)　各中学校 PTA 役員等
(5)　地域のスポーツ・文化芸術活動に携わる指導者（スポーツ少年団・クラブチーム指導者等）
(6)　地域のスポーツ関係者等（地区体育協会，スポーツ推進委員等）
(7)　奄美市中学校部活動地域移行推進会議委員（コーディネーター含む）

4　実施時期
　令和６年 11 月～令和７年２月

5　内容
(1)　中学校部活動地域移行・地域連携の概要（国・県，本市の取組等）
(2)　意見交換（全体又はグループ）
　※　一つの答えを出すのではなく，様々な視点から未来志向で意見を出し合う。
(3)　全体で出された意見の共有

令和６年度の地域座談会を終えて

1　開催地区･場所及び日時
(1)　住用地区　　（場所：住用総合支所）　令和６年11月20日（水）19時00分～20時30分
(2)　朝日中学校区（場所：朝日中学校）　　令和６年11月25日（月）19時00分～20時30分
(3)　笠利地区　　（場所：笠利総合支所）　令和６年12月13日（金）18時30分～20時00分
(4)　名瀬中学校区（場所：名瀬中学校）　　令和６年12月19日（木）18時30分～20時00分
(5)　金久中学校区（場所：金久中学校）　　令和７年１ 月31日（金）18時00分～19時30分
(6)　小宿中学校区（場所：小宿中学校）　　令和７年２ 月 ７日（金）18時00分～19時30分

2　参加者数
　176人（117人：推進委員及び教育委員会を除く）

3　現状の課題（座談会を終えて）
(1)　部活動地域移行･地域連携についての周知不足
　・　部活動指導員と外部指導者の違い
　・　クラブチームの定義及び活動範囲等
(2)　部活動への期待
　・　教員の関り，活動をとおした人間的な成長
(3)　平日と休日の指導者の指導方針の違いへの懸念
(4)　部活動地域移行･地域連携に向けた行政側の予算確保への期待
(5)　活動場所確保への懸念
(6)　部活動顧問の負担軽減

4　今後の課題及び検討事項
(1)　本市の目指す方向性に向けた取組強化
(2)　行政･地域･学校の連携した取組の構築
(3)　地域移行における責任所在の周知
(4)　運営費の在り方の検討
(5)　指導者確保の検討
(6)　活動場所確保の検討
(7)　各地区の競技団体等における自主的な協議

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

部活動地域座談会の参加者からあった主な質問や意見（第１回，第２回を終えて）

【 質 問 】
- 住用の子供達も，近い名瀬中学校に通って部活動ができないのか。
- 地域移行となれば，指導者の都合で，開始時間が遅くなり，夜型になるのではないか。
- 送迎の問題が挙がっていたが，本年より「住用地区交通空白地有償運送」（三太郎タクシー）が運行しているので，活用できたら保護者負担の軽減につながるのではないか。
- 令和９年度より中体連の全国大会で実施しない競技もでてくる。その辺は高校進学にどう響いてくるのか。
- どのように国や県の補助金を使っているのか。
- スポーツ少年団は中体連に参加できるのか。
- 今後モデル校を増やす予定はあるのか。
- 平日はどうなるのか。また，土日の大会等はどうするのか。
- 予算は大丈夫か。受益者負担になるのか。
- 外部指導員は単独で指導できるのか。
- 部活動指導員になるにはどうすればいいのか。
- 小学校を卒業した中学生が，小学校のスポ少に参加できるのか。

【 意 見 】
- 本当に子供がやりたいスポーツとして部活動が確立できるのが望ましい。
- 幅広い年齢層が楽しく実施できるニュースポーツは，子供たちと一緒に取り組みやすく，そうして幅広い年齢層でスポーツ実施できることはいいことだと思う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・コーディネーターを中心とした関係団体・分野との連携を通して，本市部活動地域連携・地域移行を進めていく。
・部活動地域座談会へ参加してもらい，部活動地域移行についての周知活動や情報収集等をしてもらう。

取組の成果

・関係団体・分野との連携を通して，本市部活動地域連携・地域移行を少しずつではあるが進めることができた。特に，関係団体との連携は，具体的な指導者の把握等，次年度につながる取組であった。
・部活動地域座談会への参加をとおして，地域の方々に対する部活動地域移行・地域連携についての周知活動を一緒に担っていただき，地域における部活動地域移行に対する課題等を共有でき，理解が深まった。
・部活動地域座談会において，概要説明や意見交換・グループ協議等を行ったが，それらの活動をとおして，次年度の活動につながる貴重な情報収集ができた。

今後の課題と対応方針

・今年度は，コーディネーター配置の初年度ということもあって，限定的な活動となった。来年度は，関係団体との更なる連携をはじめ，部活動地域座談会においても，地域におけるクラブチーム等の立上げについて，積極的に助言等を行ってもらいたいと考えている。
・実証事業の内容についても，積極的に関わってもらい，更に協力して部活動地域移行を進めていきたい。





【コーディネーターも参加しての部活動地域座談会（左：金久中校区　右：小宿中校区）の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

予定取組事項

参加費用の負担軽減を図るため，事業を活用してスポーツ安全保険負担の支援を行う。

今年度，取組を予定していたが，「スポーツ安全保険負担の支援」は，執行できなかった。

令和６年度地域クラブの主な経費（２団体分）

1	月謝	500円～1,000円
2	団体登録料	14,900円
3	指導者登録料	13,300円
4	保険料	生徒一人800円 指導者等一人1,850円
5	指導者謝金	1,600円／1h

※　２つの団体とも，場所は学校を利用しているため，費用が発生していない。

取組をとおして分かったことと今後の課題

今回の取組をとおして，地域クラブの運営において，どのような費用が必要になるか，おおよそ把握することができた。クラブ運営に係る収入について言えば，月謝が一人500円～1,000円であったが，これでは，指導者の謝金や交通費等を賄うことは到底できない。実証事業の予算補助があるからこそ，今年度は，これらを支払うことができた。以前，本市で，民間による「放課後クラブ（仮称）」といった部活動に加入していない生徒向けのクラブを立ち上げる構想があり，月謝が約5,000円程になる予定であった。募集を行ったが，結局，クラブを運営するだけの人数が集まらず，クラブ開設には至らなかった。クラブ運営のために，単純に月謝を上げても，当然ながら人は集まって来ない。

クラブチーム運営のための予算確保については，受益者負担だけではなく，他の方法による資金集めの方法も考えていかなければならない。これは，クラブ運営者がこの地域の実態に合った様々な方法を模索していかなければならない。本市としても，可能な限り，解決方法を一緒に考え，サポートしていければと考えている。お互い様々な知恵を出し合って，この問題の解決に一歩ずつ前進していきたい。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動地域移行推進会議や部活動地域座談会等の開催をとおして，現在本市が抱えている部活動地域移行に向けた課題等が見えてきた。

特に，６つの地区・中学校区で開催した部活動地域座談会では，学校関係者だけではなく，地域の様々な方々の貴重な意見等，生の声を聴くことができ，地域クラブの年齢層や移動手段等，各地区でそれぞれ抱えている課題を一部であるが把握することができた。

また，部活動地域移行推進会議及び部活動地域座談会をとおして，これまで把握していなかった新たな地域クラブの把握や，新クラブ立上げに向けたきっかけとなる手応えがあった。

コーディネーターにも，これらの活動に参加してもらい，部活動地域移行に関する情報共有や今後に向けた方針の確認等を行うことができた。

モデルクラブチーム等については，予算面で補助することができた。

●成果の評価

【部活動地域移行推進会議の開催】

当初は５回の開催を計画していたが，部活動地域座談会の開催も地区の協議会設置へ向けた大切なステップと考え，３回の開催に留め，部活動地域座談会を６回開催した。

各開催を終え，また新たな課題の把握等につながり，次年度につながる活動となった。

【モデルクラブチーム】

１クラブチームと１スポーツ少年団チームの２団体にお願いし，モデルチームとして活動してもらった。運営の補助をすることができ，また，クラブチームの運営に必要な予算を把握することにもつながった。

●今後に向けて

本市は，改革推進期間である令和５年度～７年度の活動をとおして，令和８年度から，可能な限りの「休日の部活動地域移行」を目指し，取り組んでいる。

部活動地域座談会をとおして把握した，各地区の様々な課題について，学校や地域と連携を図りながら，一つずつ解決に向けて取り組んでいきたいと考えている。

特に，地区の協議会設置は，本市における部活動地域移行を進める上で大きな鍵になるのではと感じている。

持続可能で，スポーツを楽しみたい子供たちに対応できる 「奄美市モデル」の確立を目指していきたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

「実証事業」活動の様子



【崎原バドミントンスポーツ少年団生徒の日々の練習の様子】



【崎原バドミントンスポーツ少年団生徒の県総体出場の様子】



【赤木名中相撲クラブ練習の様子】



【部活動地域座談会（名瀬中学校区）の様子】

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

市部活動の地域移行ロードマップ

奄美市教育委員会

